



# 第三回 友情ネットプロジェクト対談

平成二十九年二月二十三日

多摩大学目黒中学校・高等学校 理事長 田村 嘉浩 さん  
友情ネットプロジェクト実行委員長 天谷 武 さん（新日鐵住金株式会社 東北支店長）  
友情ネットプロジェクト指導員 落合 真理 さん（元全日本バレーボール選手）



に、活動に参加する福島県の中学生の皆さんを、学校の施設にお招きいただき、多摩大学 目黒中学校（以下、学校）の高校生・中学生の皆さんとの交流や、宿泊場所をご提供いただくなど、大変お世話になっております。まずもって、心より御礼を申し上げます。ありがとうございます。

田村 私がこの学校の校長になって以来、目指すべき学校像として「生徒、教員、学校全体が向上心にあふれ、常に進化し続ける学校」という目標を掲げています。

特に生徒達には、目的意識をもって積極的に学校生活に取り組んでいく事、そしてそのために様々な小さな成功体験を積み重ねていくことを奨励しています。部活動も、そうしたことを体現する機会になりますので、学校として力を入れて取り組んでいます。施設面では、横浜市あざみ野にセミナーハウスを設けて生徒達が部活動などに打ち込める環境を整備しています。



そうした目標や環境づくりもあってか、ここ10年で学校生活に目的意識を持って取り組んでいる生徒がとて増えてきたと感じています。部活動を一生懸命にやる生徒ほど、部活動以外の行事、勉強にも意欲が増しています。福島の中学生をお迎えするに当たり、生徒会やあざみ野で活動している色々な部活動の生徒達が協力して準備している様子を見て、人と人の絆を大切にしている生徒が多く育ってくれていることを実感でき、とても嬉しく思っています。

司会 天谷委員長も2年続けて学校での交流会に参加いただいていますか？どのような印象をお持ちですか？



天谷 そうですね。その話をさせて頂くにあたって、昨年末に多摩大学目黒さんにお世話になった際の写真をお持ちしましたので一緒にご覧頂けたらと思います。

田村 自分が感じた事や他人への思いやりの感情をまっすぐに表現しているんだ、ということ、福島の子供たちは多摩大学目黒校の生徒さんから強く感じとってくれたと思います。（天谷）

田村 第1回目の時の生徒会長が盛り上げ上手で面白い子だったんですが「福島の人からからの評判が良かったよ、ご苦労さま」と当時伝えたところ、それが今回の生徒会にも伝わり、先輩達に負けられないと、いい刺激になったみたいですよ。

天谷 福島の子は東京の子に比べると恥ずかしがり屋さんが多いかもしれませんが、御校の生徒さんと過ごすことができて、気づけたことがたくさんあった、と。

司会 津波の爪跡の残る状況の中で、さらさらと輝く瞳で私の言葉や動作を見つめていた子供たちの事を忘れることはできません。（落合）

現在、東京都にお住まいで、主婦として、二人のお子さんを育てる母親として、そしてバレーボールやスポーツに関わる事などの活動をされています。



落合 落合さんの近況をご紹介いただくとともに、交流会での印象など、ご紹介ください。私は、友情ネットプロジェクトの

司会 本日はお忙しいなか、お時間を頂きありがとうございます。友情ネットプロジェクトは、バレーボールを通じて、福島の子供たちに、友情の輪を拡げ、たくましく育ってもらうように、2013年から活動を開始し、今年で5年目を迎えています。

福島の中学生をお迎えするに当たり、人と人の絆を大切にしている生徒が多く育ってくれていることを実感でき、とても嬉しく思っています。（田村）

立ち上げ当初より、活動に参加し、巡回指導やイベントに参加させて頂いております。  
その後、二人の子供を出産し育児をしながらも、その間は自分なりのやり方で友情ネットプロジェクトに関わらせて頂いております。  
ちょうど、二人目の子供が生まれた3か月目のタイミングでしたが、昨年末の多摩大学目黒中学校・高等学校での交流会に参加させて頂きました。

友情ネットプロジェクトの参加校の皆さんと久方ぶりに触れ合うことができてとても嬉しかったです。通常、こうしたイベントの場合、最後の方にやっと打ち解けるのが精一杯なことが多いのですが、特に、今回の交流会では、多摩大学目黒の生徒会の皆さんがとても積極的に関わっていただき、福島の子供たちとのつなぎ役になっていただきました。

皆さん、きめ細かな気遣いと、心の優しさがとても印象的でした。また、田村理事長にも交流のゲームに参加いただき明るいお人柄と子供たちへの温かく優しいお気持ちと一緒にゲームをさせて頂きました。ありがとうございました。



**司会**  
落合さんは、友情ネットプロジェクトの立ち上げの時から、福島での指導やイベントでの指導などをしていただきましたが、落合さんの友情ネットプロジェクトに対する感想やこれからの思いなどをお聞かせください。

**落合**  
先にも申し上げましたとおり、私は、友情ネットプロジェクトの初期の活動から参画させて頂いており、初年度の巡回指導でお訪ねした福島県いわき市の中学校は、津波被害を受けた福島県では数少ない中学校の一つで、その惨状を目の当たりにしたときは言葉を失いました。

体育館のなかでは嬉しそうにしているけど、体育館を一步出たら全壊した家々のなかを帰っていく子供たちの姿を見て、これからも私が少しでも力になればと思います。過酷な環境のなかでも、さらさらと輝く瞳で、私の言葉や動作を見つめている姿を忘れることはできません。

福島県の未来を作っていく子供たちのために、私ができることをしっかりととしてあげようと、友情ネットプロジェクトの活動に参画させて頂いておりました。

**友情ネットプロジェクトは、自分達が大勢の人達から応援されていることに気づき、実感することの出来る場だと思っています。(天谷)**

**司会**  
最後に、天谷実行委員長より、これからの友情ネットプロジェクトの活動に対するお考えや、思いなどをお聞かせください。



**天谷**  
友情ネットプロジェクトは、年間を通じての福島県内の対象校への巡回指導と、多摩大学目黒様にお世話になっているような交流イベントという、2つの軸でまわっています。

なかでも関東交流会は、実施に際

して各所に大きなご負担をお掛けしますが、子供たちの心の成長の場として、またそれを見守る大人たちにとっても、大きな意義を見出せるものと思います。

自分を支え応援して下さる沢山の方々の存在に気付き、感謝の気持ちを育むこと。そのための大切な場だと思っています。福島の子供たちが、やがて世代間で支え合い、教え合って、新しい未来を切り開いていくことを、私達の活動も、彼らと一緒に自立と創造に向う営みだと思っています。

また、多摩大学目黒の生徒さん方にも、福島の中学生と触れ合って下さった事を忘れずにいて頂けたらと思います。皆さん、勇気を出して友達の輪のなかに迎え入れてくれた。そのことを、御校の生徒さんが次の世代に繋げていって頂けたら本当に嬉しく、ありがとうございます。



**司会**  
今日は最後にみなさんに、子どもの育成・指導にあたり、大切にしている言葉(モットー等)を色紙に書いていただきました。田村理事長よりご紹介いただけますか。

**田村**  
私は「進化」という言葉を選びました。

これからの変化の激しい時代を生きていくには、人間一生成長を続けていくことが大切だと思います。特に若い皆さんには、自分なりの目的意識を常に持って、研鑽を積んでいくことが大切だと思います。成長、進化を続けていける人になつてほしいと思います。



**天谷**  
「一緒に乗り越えていこう!」という言葉にさせてもらいました。私は2013年に、新日鐵住金社会人野球「かずさマジック」のゼネラルマネージャーをしておりまして、決勝戦の前日にこの言葉を

チームで共有し、日本選手権で、優勝する事ができました。

そして、福島の子供たち、関東の子供たちで、これから先に立ち上がる障害を共に乗り越えていって欲しい。そういう願いを込めて書きました。



**落合**  
私は3c「チャレンジ、チェンジ、チャンス」という言葉を贈ります。何事にもチャレンジしましょう。

そしてチャレンジすると必ず何かが変わります。それは、自分が変わるか、相手が変わるか、環境が変わるか、分らないけれど、必ず何かがチェンジします。

そしてまた、そこからすぐにチャンスに繋がる事は少ないけれど、何度もチャレンジしてチェンジして、を繰り返すと、その先には必ずチャンスが待っていますよ、という子供たちに話をさせてもらっています。

友情ネットの交流イベントも、一種のチャレンジだと思っております。

参加するには勇気があります。でも参加しなかったら何にも変わっていないなかつたと思うんです。勇気を出した結果、たくさんの方のチェンジの機会に巡り会えるんだと思います。

どんな困難な状況においても、それをチャンスだと考え、積極的に挑戦して自分を変え、社会を変えていけるたくましい子供に育って欲しいという思いです。

**司会**  
皆様、本日はご参加ありがとうございました。そして、多摩大学目黒中学校・高等学校田村理事長には、ご多忙にも関わらず、お時間を割いていただき、貴重なお話を頂戴いたしました。今後とも、友情ネットプロジェクトへのご支援をよろしく願います。

司会(友情ネットプロジェクト事務局 吉野睦美/榎エール)

